

宮崎県拠点の
Webサイトは
こちらから

宮崎県拠点だより

事例紹介
ファイル #8

持続可能な農業に向かって!!

日々の営農活動にも工夫をこらして

J A みやざき日向地区本部冬春ミニトマト専門部会長の田村勝幸さんは、美郷町西郷のハウス43aで、ミニトマトを生産しています。

訪問時の3月中旬は、茎葉の長さが6mに伸びたミニトマト(サマー千果)を収穫中。

冬場は開花から約70~80日、初夏以降は40日で収穫となります。地球温暖化の影響と思われる高温が続き、8月下旬の植え付け後の着果に影響するため、今後は植え付け時期を遅らせる必要があると考えています。

また、一昨年まで宮崎県農業経営指導士として、施肥や防除の技術、ハウス内の温湿度の管理技術などのノウハウを、部会内の生産者に惜しみなく提供。現在も、部会全体が単収アップや所得率の向上を目指し、更には、地域の経済発展に繋がるようにとの思いから指導しています。

令和4年から、県の事業を活用してハイブリッド型のヒートポンプ2機を設置。

11月中旬~3月上旬は、ハウス内を最低10℃以上になるように、燃油暖房機とヒートポンプを併用することにより、年間200~300万円かかっていた重油代の低減やCO₂の削減にもつながっています。



ミニトマトを生産する田村さん(右)と菊池地方参事官



ミニトマトとハウスの全景

また、年に1回の土壌分析や、灌水時の土壌EC値の分析結果により、不足する成分値の肥料を追肥することで、化学肥料は可能な限り少なくしています。

更に最近の新たな技術である「バイオスティミュラント」資材や堆肥などを活用し、環境に配慮した持続可能な農業に取り組んでいます。

●バイオスティミュラント

植物の生育を促進し、病害に対する抵抗性を向上する資材



ハイブリッド型のヒートポンプ

拠点のうごき



宮崎県立農業大学校の皆さんと菊池地方参事官

3月4日

宮崎県立農業大学校でみどり戦略学生チャレンジ九州ブロック大会賞状贈呈・意見交換

将来を担う若い世代の環境に配慮した取組を促すために開催された「第1回みどり戦略学生チャレンジ九州ブロック大会」において、九州農政局長賞、九州農政局特別賞を受賞された宮崎県立農業大学校の学生に賞状を贈呈し、意見交換を行いました。

3月5日

第2回「フラッグシップ輸出産地」の認定証を授与

宮崎県牛肉輸出コンソーシアム(代表 船ヶ山祐二氏)に、「フラッグシップ輸出産地」の認定証を授与しました。「フラッグシップ輸出産地」は、農畜産物を輸出している産地のうち、海外の規制やニーズに対応して継続的に輸出に取り組み、輸出取組の手本となる産地を農林水産大臣が認定する制度です。宮崎県において「牛肉」は、本コンソーシアムが初めての認定産地となります。



宮崎県牛肉輸出コンソーシアムの船ヶ山祐二氏(右)と菊池地方参事官

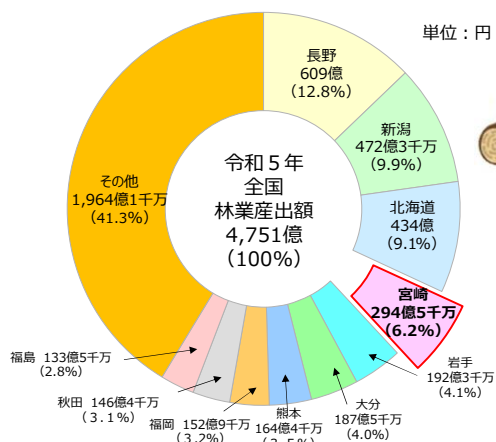
データで見る宮崎の 林業 !

○農林水産省は、令和7年2月28日に令和5年林業産出額を公表しました。

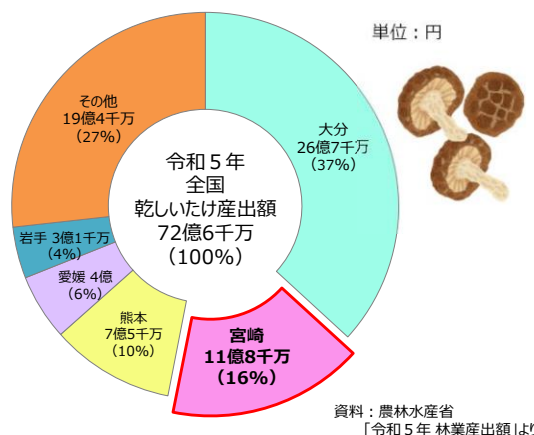
宮崎県における林業産出額は294億5千万円で全国4位となっています。なお、木材生産産出額は243億9千万円で全国2位となっています。

○乾しいたけ生産量の多い宮崎県における乾しいたけの産出額は11億8千万円で全国2位となり、九州の大分県、宮崎県及び熊本県の3県で全国の約6割を占めています。

令和5年 都道府県別林業産出額



令和5年 乾しいたけの産出額



●本紙の記載内容や農政についてのご質問、ご意見等お気軽にお問い合わせ下さい。

●宮崎県拠点 地方参事官室
TEL 0985 - 24 - 2365
〒880-0801 宮崎市老松2丁目3-17

編集後記

今年のソメイヨシノの開花は、3月23日の高知、熊本に続いて、東京と本県が24日との発表がありました。

そろそろ満開となって一気に春を感じ、これから一年、世の中はどう動いていくのか、より良い状況になることを期待しながらの新年度スタートです。(N)